

営業戦略農林水産委員会

### キャンプ場の魅力発信による 地域経済の活性化は イベント、グルメや土産などの 情報も発信しPRしていく

**問** キャンプ場の魅力発信について、周辺の名所にも誘導し、地域経済を活性化することが重要と考えるが、所見は。

**答** 本県には約六十のキャンプ施設があり全国一位の数<sup>\*</sup>である。ポータルサイトを設け各キャンプ場の特徴を分かりやすく情報発信する。周辺観光地のモデルコース、イベント、グルメや土産の情報も発信し、周辺に人が流れるよう取り組んでいきたい。

**問** これからの旅行には、娯楽だけではなく学べる機会の提供や、清潔さ、グリーンなイメージが求められると考えるが、所見は。

**答** 教育や学び、体験型コンテンツを充実させることは重要と認識している。キャンプ魅力発信事業もその一つである。清潔さなどについてもPRしていくべきであり、安心して観光客を呼び込める環境づくりを努めていく。

**問** 新型コロナウイルス感染症の影響による消費の落ち込みで、経営が厳しい霞ヶ浦北浦コイ養殖業者への支援策は。

**答** 学校給食提供事業の活用を検討するとともに、販路拡大のため県内飲食店や調理師



県内キャンプ場の魅力発信を

と連携したPRを行う。資金繰り支援としては県の漁業近代化資金などがあるが、現場の状況を調査し支援していく。

**問** トラクターに作業機を装着して公道を走行する場合、寸法・速度が規定を超えると大型特殊免許が必要である。農業者への免許取得支援は。

**答** 緩和措置により一部作業機を付けての公道走行が可能となった。これを受け免許が必要な方へ、茨城県立農業大学校での免許取得研修を九回から十一回に拡大し対応している。今後も講習機会を増やすなど、検討していく。

(ほかに、茨城空港の愛称決定の経緯、県産和牛等学校給食提供緊急対策事業なども質問)

土木企業委員会

### 国道六号酒門町交差点 立体化計画の進捗状況は 新規事業化に向けて要望活動を 行っていく

**問** 国道六号酒門町交差点は県内有数の交通量で慢性的な渋滞が発生し、交通事故多発地点でもある。立体化計画の進捗状況は。

**答** 水戸市を含めた、酒門町交差点周辺道路勉強会を開始する。渋滞の状況を整理し、県と市の役割分担を決めながら進めていく。さらに、来年の新規事業化に向けて水戸市と協力し、国への要望活動を行っていく。

**問** 東関東自動車道水戸線における鉾田ICから潮来ICまでの残る約三十一キロの用地を含めた整備進捗状況は。

**答** 用地は令和元年度末までに面積ベースで約九十四%を取得している。工事は平成二十七年に着手し、地盤改良や道路構造物などの工事が進められ、令和元年度末までの進捗状況は、事業費ベースで約五十二%となっている。

**問** 東関東自動車道水戸線は、整備が推進されているが、鹿島臨海工業地帯への延伸について今後の方針は。

**答** 鹿島港周辺の渋滞状況も勘案し、一般道において港へ至る方面別ルートの変更や交差点の立体化なども含め、国・



東関東自動車道水戸線の整備状況  
(ネクスコ東日本提供)

県・市で協議・検討を行っていく。

**問** 日立市砂沢町で発生した漏水事故を踏まえ、県の漏水対策への取り組みは。また、漏水防止対策計画の具体的な内容と本年度の予算規模は。

**答** 管路付帯設備の分解点検を年に一回、管路パトロールを月に二回実施している。平成二十四年度に管路更新事業化計画を策定し危険性の高い管路の更新を優先的に進めている。計画は、管路の耐震化と老朽化対策を目的とし、漏水防止に寄与する。本年度は五十四億円の予算で延長十九キロの管路更新を計画している。

(ほかに、道路のメンテナンスと予防保全、水道事業の技術職員確保なども質問)

文教警察委員会

### 学校行事の実施に向けた 県の対応は 学校行事に取り組みやすい 環境をつくっていく

**問** 有意義な学校生活を送る上で、学校行事は極めて重要なものと考えられているが、学校行事の実施に向けた県の対応は。

**答** 子どもたちが楽しみにしている修学旅行や運動会などの学校行事が可能な限り実施できるように、実施に向けた対応や工夫点をまとめ、市町村が学校行事に取り組みやすい環境をつくっていく。

**問** 暑い時期に登校することになるが、学校再開ガイドラインにおける登下校時の熱中症対策とはどのようなものか。

**答** 今年は八月にも登校するため、例年以上に注意が必要と考えている。ガイドラインでは、三密対策を講じた上で、マスクを外せること、暑さ指数に留意した活動を行うこと、水筒持参でこまめに水分補給することなどを示している。

**問** 運転免許更新時の認知機能検査や高齢者講習は、受講待ち期間の短縮が求められているが、対応策は。

**答** 会場が少ない県北地区には、運転免許センター職員を出張させ、高萩または日立警察署において週一回認知機能検査を実施している。また、運転免許の有効期限が迫って



水筒を持参して登校する小学生

いる方には、教習所に新たな講習日を追加して受講予約を受け付けるよう依頼している。

**問** 今年は海水浴場の開設中止が発表されたこともあり、水難事故の発生が一層懸念されている。どのような対策を講じていくのか。

**答** 海水浴場やその周辺において、陸海空からのパトロール活動を推進し、遊泳者に対して事故防止のための呼びかけを行うなど、注意喚起を図っていく。また、浮き輪や救命用ロープなどの水難救助用資機材を整備するとともに、関係機関との合同訓練を実施して連携強化に努めていく。

(ほかに、県立高校のICT環境の整備、子どもを事件・事故から守るための対策なども質問)

※キャンプ場の数は、スポーツ庁実施の体育・スポーツ現況調査(平成30年度)による。